

平成 24 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会の会議概要

I 日 時 平成 24 年 11 月 7 日 (水) 13:00 ~ 14:30

II 場 所 日本獣医師会・会議室

III 出席者

【委員長】 酒井 健夫 日本獣医師会学術担当理事 (日本大学生物資源科学部教授)

【産業動物部門委員】

明石 博臣 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授
齋藤 康倫 千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所長
佐藤 繁 岩手大学農学部教授
澤田 勉 大阪府立大学名誉教授
中尾 敏彦 元山口大学農学部教授

【小動物部門委員】

木俣 新 木俣動物病院院長
佐藤れえ子 岩手大学農学部教授
西村 昌数 帯広畜産大学名誉教授
日笠 喜朗 鳥取大学農学部教授
丸尾 幸嗣 岐阜大学応用生物科学部教授

【公衆衛生部門委員】

石黒 直隆 岐阜大学応用生物科学部教授
林 賢一 滋賀県衛生科学センター滋賀県参事員
丸山 総一 日本大学生物資源科学部教授
山田 章雄 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
山本 茂貴 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長

【本 会】 矢ヶ崎忠夫 (専務理事)

IV 議 事

- 1 平成 24 年度日本獣医師会獣医学術賞 (獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞) の選考・審査等
- 2 その他

V 会議概要

開会に当たり、矢ヶ崎専務理事から挨拶が行われた後、委員の出欠の確認が行われ、欠席委員からは各部門副委員長への委任状が提出されていることが事務局から報告された。

1 平成 24 年度日本獣医師会獣医学術賞（獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞）の選考・審査等

事務局からの日本獣医師会獣医学術賞に関する規程の説明に続いて、獣医学術奨励賞については日本獣医師会雑誌に掲載された研究論文（原著・短報）の中から、獣医学術功労賞については推薦のあった業績の中から、それぞれ部門ごとに選考が行われた後、各部門の副委員長から審査結果と選考理由がそれぞれ以下のとおり報告された。

【 産業動物部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 51 題から選出 〕（第 64 巻第 12 号掲載）

Loop-mediated isothermal amplification 法を用いた馬鼻肺炎による流産の診断法の検討
小山 毅（北海道日高家畜保健衛生所）、他

<選考理由> 馬鼻肺炎ウイルスによる流産の診断には、CF 法や PCR 等の遺伝子診断法が用いられているが、時間と設備を必要とする。LAMP 法はこれらを改善した遺伝子診断法であり、本論文は、この LAMP 法を馬鼻肺炎ウイルスによる流産例に応用し、従来の CF 法と同等以上の診断における感度、特異度を示すことを明らかにした。簡便な診断法としての実用性を示したものであり、迅速な流産対策に道を開いたものとして高く評価できることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

牛の遺伝性疾患の臨床診断、遺伝子診断の確立と牛群からの排除

小川博之（東京大学・名誉教授）

<選考理由> 東京大学名誉教授小川博之氏は、長年にわたって獣医臨床病理学及び獣医内科学分野の学術活動に従事し、特に、牛の遺伝性疾患に関する臨床的研究において著しい成果をあげ、学術専門誌にも多数の論文を発表した。これらの業績は、産業動物獣医学に関する学術の振興及び普及に大きく貢献しており、獣医学術功労賞に該当するものである。

【 小動物部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 63 題から選出 〕（第 64 巻第 9 号掲載）

ミルリノンとカルペリチドの低用量併用療法を実施した重症心不全の犬 5 例

有田申二（広島県開業）、他

<選考理由> 本論文は、犬の慢性心不全の急性増悪期に対する治療法として、獣医療で初めてミルリノンとカルペリチドの低用量併用療法の有用性を報告したものであり、極めて新規性が高く、小動物臨床に携わる獣医師に対して貴重な情報提供を行っている点が高く評価される。論文の中では心機能の解析を詳細に記述して併用療法においても心拍出量の低下や腎機能の悪化を招くことなく、致命的な心不全を改善した点が詳細に記述されている。臨床的意義が的確に論議されているため、今後の臨床応用へと繋がる内容であり、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

獣医臨床病理学と内分泌・代謝疾病学に関する学術の振興と普及

小野憲一郎（東京大学・名誉教授）

＜選考理由＞ 小野憲一郎氏は、長年にわたり獣医学教育分野の充実と獣医学研究の発展に尽力され、特に小動物の糖尿病や高脂血症などの内分泌・代謝性疾患の研究を推進し、これらの研究成果を数多くの学術誌に公表した。このように、小動物獣医学に関する学術の振興と普及に多大な効果をあげていることから、獣医学術功労賞を授与するのに相応しいと考えられた。

【 公衆衛生部門 】

〔 獣医学術奨励賞：候補業績 10 題から選出 〕（第 65 巻第 7 号掲載）

島根県におけるつつが虫病の疫学的検討

田原研司（島根県保健環境科学研究所）、他

＜選考理由＞ 本論文は、島根県下におけるつつが虫病の疫学を患者ならびにげっ歯類の双方から血清学的及び分子遺伝学的な手法を用いて解析し、アカネズミが自然界において本リケッチャの維持に大きく関与していることを明らかにした点は高く評価できる。また、広範囲の疫学調査より、つつが虫病の人への感染源を突き止めた点も公衆衛生上の重要な知見となっている。以上、本論文は獣医学術奨励賞に値するものであり推薦する。

〔 獣医学術功労賞 〕

フラビウイルス感染症の疫学的研究

高島郁夫（北海道大学・名誉教授）

＜選考理由＞ 北海道大学名誉教授・高島郁夫氏は、長年にわたりウイルス性人獣共通感染症の領域において多大な研究業績を残している。特に、北海道における日本脳炎ウイルスの越冬機序の解明、ダニ媒介性脳炎における疫学的研究やウエストナイルウイルスの研究は高く評価される。また、長年にわたり日本獣医公衆衛生学会の発展に大きく貢献していることから、功労賞を授与するに相応しいと判断した。

VI まとめ

平成 24 年度第 1 回委員会は、酒井委員長によって以下のとおりまとめられた。

- 1 平成 24 年度第 2 回委員会は平成 25 年 2 月 10 日（日）、平成 24 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大阪市）の会場である幕張メッセにおいて開催すること。
- 2 平成 24 年度日本獣医師会獣医学術賞の発表と授与は、平成 24 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大阪市）の場において行うこと。